

2019年11月18日

東海村議会

議長 大内 則 夫 様

東海村議会議員 大名美恵子

東海村議会議員 恵利 いつ

東海村議会議員 清宮 壽子

東海村議会議員 阿部 功志

業界誌「ENERGY for the FUTURE」2019 no.4 上での山田村長の発言について、議会に説明を求めることに関する要請書

日頃より、東海村議会の円滑な議事運営に尽力されていることに敬意を表します。

さて、今般、山田修村長が新潟県刈羽村の品田宏夫村長と「BWR の再稼働」と題して対談を行った内容が、業界誌「ENERGY for the FUTURE」2019 no.4に掲載され、10月1日付で発行されました。

対談で山田村長は、議場や村民の前でこれまで一度も発言したことのなかった「BWR についても、しっかりと再稼働していく必要があると思っています」や、再稼働を望まない住民に対する評価として「一般の住民というよりも、自分たちの理屈を押し通したいという人たちがいて、一般の冷静な人はそういう人たちに巻き込まれたくない、関わりたくないという雰囲気があって、なかなか村内で本当に原子力について考えようという雰囲気が出てきません。これが問題」などの発言をされており、大変驚いているところです。

「東海第二原発の再稼働の必要性」と具体的に述べているわけではありませんが、東海第二原発問題に関する村長の村内におけるこれまでのスタンス、「再稼働の是非を判断するための4要件のうち『実効性ある広域避難計画の策定』と『住民の意向把握』が残っており、両者とも大変難しい課題である」、ということとは大きく変わり、同誌上では、すでに村長の考え方が定まっているかのような発言が多々行われています。この事態は、議会や村民に対する首長としての一貫した責任ある態度とは到底受け止められず、説明を求める必要があると認識します。

よって、これら発言に至った経緯や発言の意図等について、村長自身から議会に対し説明を行うよう求めていただくことを要請します。

以上